

『サバコレ』で世界一の福井を目指す

2045年、福井県はオシャレなグローバル都市として世界中から注目を浴びている。「四七都道府県幸福度ランキング一位」を保持したまま、「住みたい都道府県ランキング一位」になっている。そして、「海外から移住したい街一位」に福井県鯖江市が燦然と輝いている。何故なら、世界のトップブランドがこぞって鯖江市にアイウェアの工場を建設し、初春にファッションショーが行われる。パリコレならぬ「サバコレ」と言われ、トップモデルやプレス、ファンが福井県を訪れる。最新のアイウェアショーは世界に向けて、あらゆるメディアで発信。ショーのバックミュージックは勿論、福井県で作られたハーブで奏でられる。ショーの合間に観客は、ごま豆腐や越前ガニといったヘルスコンシャスな食事に舌鼓を打つ。座禅体験は心身のリラックスに最適と話題。福井県は、世界中のファッションistaやクリエイターの聖地となっている。

そうなるためには、現状の分析から始まる。ご存じの通り、2020年福井県は一般財団法人総合研究所によると、全四七都道府県幸福度ランキングでは全国一位だ。しかしながら、ブランド総合研究所によると住みたい都道府県ランキングでは四三位である。何の魅力に欠けているのか？

それは恐らく、日本がSDGsで国際的に評価されないジェンダーの取り組みと気候変動の取り組みが人口に届いていないとされているのではないか。これは他の地方都市が抱える問題でもある。私は以前、兵庫県豊岡市に地方創生プランを提言したことがあるが、問題点が非常に酷似していることに気付いた。特に、人口流出が激しい。若い世代のうち女性が大学に上京後、戻ってこない。女性が社会で活躍できる場所を考えると、東京にそのまま移住、結婚、出産をする。少子高齢化、人口減少が進む福井県で女性が戻ってこな

いと少子化が加速する。解決するためには、女性が魅力的だと感じる街づくりをしなければならぬ。ファッションは女性が最も活躍しやすい産業の一つである。アイウェアの工場が増えれば雇用機会が増える。パーツが軽くて細かいので力が無い女性やきつと障害のある方でも働きやすいのではないか。工場であれば上手くシフトを組んで、フルタイムで働かなくても、短時間勤務を組み合わせることができる。それにより、子供がいる女性でも子育てをしながら社会に貢献できるのではないか。何より世界のファッションの発信地に誇りを持てる。仕事にプライドやモチベーションがあることは、長く勤務をする原動力になる。女性が働きやすい、となると地元の人だけでなく他の都道府県からも人が集まってくるだろう。人がいるという活気で店も増え世界中からも人が来ることで観光業も発達するだろう。

人が住みやすくなるために、冬の雪害対策にも力を入れることになる。新しい産業も発達して資金が豊かになっているため、自然現象に対する措置も一早く講じることができる。世界に注目をされた福井県は様々なコンテンツも発信することができる。恐竜、修行寺、人気都市京都とのコラボ。北陸の海ならではの企画。例えば奇岩クルーズからの石川県七尾湾までのイルカウォッチング。太平洋側と異なり浅く潮の満ち干きが少ない特徴を生かして美しい海と触れる。一度、注目を浴びた県は何を提案しても話題になる。ファッションが追い風となり、福井県のステージはあがるのだ。

まずは、「サバコレ」からスタートだ。